

## 巻 頭 言

2015年1月17日（土）に、千里ライフサイエンスセンター（大阪）の山村雄一記念ライフホールにおいて、第30回体液・代謝管理研究会年次学術集会を開催いたしました。

本会は、昭和60（1985）年に、「侵襲時の体液代謝管理研究会」として大阪の地で開催され、以降学術集会は、外科学・麻酔科学・救急医学・集中治療学などの分野を専門とする医師・研究者に臨床検査などの医療技術者を加え、継続して毎年開催されてきました。

体液・代謝管理研究会は、「主として侵襲下の生体に関する体液と代謝の問題を総合的に研究し、この方面からの生命維持に関する理論、ベッドサイドでのデータ表示、臨床的活用法などの進歩をはかり、関連領域の医学の発展に寄与することを目的とする」を会則（第二条「目的」）に述べ、その目的達成のため学術集会の開催と研究会誌「体液・代謝管理」の刊行を行って参りました。

30年の節目にあたる年次学術集会では、開催テーマを「体液代謝管理30年のあゆみ」とさせて頂きました。午前はその開催テーマで記念講演を行い、臨床検査について筆者、救急医学は横田順一郎先生、集中治療学は富家伸夫先生に各分野の歴史と今後の展望をご講演頂きました。さらに研究会設立当初より本会の活動に御苦労いただいた高折益彦先生に、本会の30年のあゆみについてご講演頂き、今後本会がどのような方向性を持って医学医療の発展に寄与するかを考える機会を与えて頂きました。

特別講演は、事務局の飯島毅彦先生に御助力頂き、デンマークよりBirgitte Brandstrup 先生をお招きして、体重増加を伴わない新たな輸液管理についてご講演頂きました。また学術集会の後半では関連のあるテーマのシンポジウムとして「V2レセプター拮抗薬と周術期の体液管理」を企画し、基礎の視点からバゾプレッシンの生理学的・病態生理学的役割を石川三衛先生に、臨床の視点からトルバプタンの開心術後水分管理における安全性と有用性の検討について、野口権一郎先生にご講演頂きました。

当日は、1995年1月17日の「阪神・淡路大震災」の20年目にあたり、この災害を教訓に医学・医療に大きな変革があった日であることから、教育講演は救急医学領域の企画として、溝端康光先生に外傷診療の輸液・輸血管理についてのご講演を頂きました。

ランチョンセミナーは、積水メディカルの共催で臨床検査分野の企画として、敗血症DICのモニタリングに用いる臨床検査について、射場敏明先生にご講演頂き、研究会誌へのご投稿についても快くご承諾頂きました。

この度この記念の学術集会を担当させて頂いたことをとても光栄に思い、関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。また当日の第一線でご活躍の先生方のご講演内容が研究会誌に掲載され、皆様にご覧頂けることを幸いに思います。

第30回体液・代謝管理研究会年次学術集会

集会長 増田 詩織

（近畿大学医学部附属病院 中央臨床検査部 科長）